夏の幼稚園を終りて

東京市富士見尋常小學校長　津田信雄

一、はじめに

二三日前、私は、幼稚園の門を出やうとすると、其所に一人のかはゆい男の兒が、弟らしい兒といつしよに、おばあさんに連れられて、立つて居るのを見た。「校長先生」、大きい方の兒は、私を見て叫んだ、近づいて來るのを見ると、此間まで夏の幼稚園に來てゐた大山といふ子供だ。

「ア、大山さんか」

私は、子供の頭をなでゝ、特徴ある彼の凉しい眼を見た。

おばあさんは、

「先生で御座いますか、孫が、此間中來て居つた幼稚園へ行つて見たい〳〵と申すものですから、守りをし乍ら參りました、その節はいろ〳〵御世話樣になりまして、有りがたう御座いました、といふ。

體格のよい、伸び〳〵した、元氣で、そしてやさしい大山だ、水遊びの時の彼の活動、知能檢査をし

た時の彼の答へぶり、百二十に近い指數を得た彼、私の頭の中では、それからそれへと、夏の幼稚園の光景が動く。

彼は何と思つて、今此所へ來たのであらう、三週間を面白く遊んだ此幼稚園をなつかしんで、おばあさんを促して遊びに來たのか。

「さようなら」、「失敬」、彼は手を擧げて、私の出て行くのを見送つた。

二、ねらひどころ

今夏、我麹町區教育會の主催で、試みた此夏の幼稚園は、學齡以前に於ける主として貧しい家庭の幼兒を集め、夏季に於ける衞生や躾の上の危險から、遠ざからしめ、園內及移動保育の生活により、良い習慣のもとを作り、且つ保護者に對し、家庭教育上の參考資料を提供するのが目的である。

則、貧しい者の爲にといふのが、趣意であり、ねらひどころであるから、入園幼兒の撰定方法を始めとし、通園の方法や、保育の方法等、一々之に適切なる特殊の手段と細心の注意とを以て、所期の効果を擧げるやうに努めたのであるが、殊に幼兒の教養に關心乏しいと思はれる之等の家庭に對し、幼稚園終了後、その幼兒の教養につき參考資料を提供し、聊かたりとも兒童愛の自覺を高めさせたいといふのが重要な企圖であつた。

三、期　間

昭和六年七月二十一日から、八月十三日迄、日曜日は休みとし、まる三週間、午前八時半から午後三時迄。

四、幼　兒（年齡、組別、兒數）

年齡は數へ年五歲から七歲迄、總數六十一名、大體曆年齡に基き三組に編成し、各組約二十名內外。

園兒組別	組別	男	女	計
櫻	組（七歲）	一七	七	二四
柳	組（六歲）	一〇	九	一九
桃	組（五歲）	七	一一	一八
計		三四	二七	六一

五、職　員

一、團　長　一　　富士見小學校長
二、保育主任　一　　富士見幼稚園保姆主任
三、保育係　六　　富士見幼稚園保姆　二
　　女高師保育實習科卒業　二
　　同　　實習科生　一
　　玉成保姆養成所卒業　一
四、衞生顧問　二　　密士見小學校校醫及他一名
五、衞生婦　一　　富士見小學校衞生婦
　　外ニ使丁一名

右の通富士見幼稚園職員總がゝりであるのは、勿論であるが、之ではまだ充分とは言へない。幸、東京女子高等師範學校の方で、保育實習科卒業生及在學生の中から、進んで斯かる經驗をして見たいといふ三人の人達をよこして貰ひ、又一人は玉成保姆養成所の卒業生であるが、進んで此仕事に當りたいとの申出でがあつて、都合七人、各組に二人宛(但櫻組は三人)の保育係を配當し得る陣立がとゝのつた。

私は、特に之等の若い人達が、心から經驗を得たいといふ熱意を以て、この暑い三週間を、この事業に献げて貰つた誠意を感謝して止まない。

普通とは違つたしかも始めての此の仕事が、好都合に終る事の出來たのは、之等人達の教育精神に負ふ處の多いのは言ふまでもない。

六、入園兒をどうしてきめたか

入園兒を如何にして決定するかは、始めから困難の事と思つたが、之はどうしても、各家庭の事情に明るい各町會長を煩はすより他に途はない。そこで私は、關係の十四會長を訪問し、夏の幼稚園開催の趣意、特に貧しい惠まれざる幼兒の爲の企圖につき、詳細にその了解を求め、その町内に於ける比較的下層の家庭中、此の趣意に恰當する幼兒の撰定を依頼した。各町會に於ては、何れも多大の賛意を表せられ、喜んで幼兒撰定の勞をとられ、其の結果斯かる幼兒は飯田町、富士見町、三番町、一番町に於て總數二百餘名に上つたが、定員は五十名であるから、更にその希望者から、町會長の撰拔を請ひ、身體檢査の上、次の如く六十一名だけを入れる事にした。

飯田町二丁目	六
同　三丁目	一八
同　四丁目	一一
同　五丁目	四

同　六丁目　四
富士見町五丁目　五
一番町　二
三番町　一一
計　六一

此の決定については、希望者が非常に多數であつた爲め、各町會に於ても、隨分面倒であつたやうであるが、すべて町會へお任せして、園では全く關係せぬことにした。

その結果は、町により多少の相異はあるが、大體この趣旨に副へる幼兒を得る事が出來たのは、誠に幸の事であつた。次に保護者の職業別を掲げる。

保護者職業別

商店員四　運轉手二　革具屋一　青物屋一
飲食店四　印刷業二　麻雀一　寫聯一
菓子屋三　メタル屋二　下駄屋一　箱製造業一
洋服屋三　自動車修繕業一　下駄歯入れ屋一　素人下宿一
會社員三　呉服店一　人力車一　靴屋一
氷屋二　花屋一　日雇一　賣藥一

經師屋	二	使丁	一	疊屋	一
砂利屋	二	乾物屋	一	電機工夫	一
酒屋	二	もみれうじ	一	足袋屋	一
瓦屋	一	煎餅小賣	一		

精進揚ゲ屋	一
無職其ノ他	四
土工	二
計	六一

七、準備としての家庭訪問

普通ならば、開園前に保護者を集めて、一同に注意心得を話すのが常であるが、なるべく趣旨の徹底を圖り、且つは一度家庭の事情を知りたい考へから、開園以前に、各保姆は手別をして、各家庭を訪問し、一々父兄に會つて、こまかい點にまで立ち入つて話をした、その時の話の要點は次の通り、

「暑い夏が來ました、此の時期は、傳染病なども多く、小さい子供さん方の身體に、一番氣をつけなければならぬ時であります、暑いからと言つて室の中ばかりに居らせる事もかはいさうでありますし、そうかと言つて町中で自由に遊ばせておく事も、危險であります、それで此の夏の幼稚園を開き、特にからだの事に氣をつけ、元氣に面白く、ためになるやうに此の夏をすごさせて上げたいと思ひます。ついては、次の事柄をよく御承知御實行下さつてよこして下さい」

(一)會　期　七月二十一日から八月十三日迄（日曜は休み）

(二)時　間　午前八時半から午後三時迄

(三)月　謝　いりません

(四)通　園　送り迎へはなくてもすむやうにします（自動車通園についての詳細な注意）

(五)着　物　ふだん着のまゝでよろしい

(六)はきもの　之もふだんのまゝ、下駄でも何でもよろしい、上ばきはいりません

(七)間　食　午前と午後、二回間食を上げます

(八)晝　食　おべんとうはおむすびにかぎる事、おべんとうは風呂敷につゝむか、ふくろに入れて持參する事、バスケットは買はぬ事

(九)費　用　幼稚園へ入れる爲め物いりのせぬやう注意して下さい。

八、通園の方法

普通の幼稚園は、通園に送り迎へが入るのは常であるが、本園はそれの出來ないやうな家庭の者が、多數を占めて居るのであるから、極めて園に近い危險のない數名を除くの外は、外國の例により、之を自動車によつて通園せしむる方法を採つた。

併し之は多大の費用を要するのであるが、幸に町内に特志家（三番町服部常吉氏）があつて、奉仕的に、之が爲に自動車二臺を、日々往復二回提供して貰つたので極めて好都合に實現する事が出來た。

服部氏は、自動車業をして居られる人であるが、この幼稚園の趣旨に共鳴せられ、朝夕自動車の特に忙しい貴い時間を、幼兒通園の爲に犧牲に供せられたといふ事は誠に感激堪えない次第である。

さて、此の自動車二臺を以て、如何に幼兒を通園させたかといふと、其の方法は次の通りである。

(一)各町幼兒集合所　左表の如く各町適當の所に集合所を作り、朝は午前八時半迄に集合して自動車を待つ事、此所までは父兄其他が附添ふ事、町によつては青年團員又は町會役員などが親切に世話をされた處もある。歸りは午後三時迄にこの集合所まで迎に來て居る事。

(二)自動車の活動

(イ)保姆二名は午前八時半迄に自動車出發所（三番町服部氏）に至り、所定の自動車に分乘すべく出發を待つ事。

(ロ)自動車二臺は、次の通り所定の分擔集合所に至り、各二回往復して全兒童を運ぶ、同乘せる保姆は幼兒の世話に任ずる事。

(ハ)歸りは、園で午後三時迄に、幼兒の歸宅準備を整へて自動車の來るのを待つ事。

(ニ)自動車は、午後三時五分位に園に來り、所定の如く分擔二回往復して、集合所迄運ぶ事。

此の方法は、實際に於て、豫想したよりも、非常に好都合に運ばれ、之に要する時間は二十分乃至二十五分で頗る正確に敏速に行はれた、之は幼兒の集合が、正確で、且つ乘降りも敏速に行はれた結果、

時間を空費する事がなかつた爲である。

普通の幼稚園の場合を考へると、往復とも時間は、とかくダラ〳〵となり勝のものであるが、自動車の場合は（之は當然とは言へ）朝は八時三十四五分から同五十分位までには全部集り、歸りは三時五分から同二十分位までには一人殘らず歸つてしまふ。いかにも氣持がよい、敏速正確に行く。

殊に自動車店主服部氏は、安全の責任を深く感じられ、車も立派な高級のものを提供せられ、運轉手も熟練な者をのせ、職業上非常に多忙で車の不足するやうな場合でも、決して他の車を使つたり、なれない運轉手を乘せたりせられる事はなかつた。

之は經濟上の犧牲以上、洵に有りがたい氏の崇高な心情の發露で、私は惠まれざる幼兒保育の上から、特に深い感激の情に充ちて居るものである。

通園一覽表

	町別	集合所番號	自動車番號及運ブ順序 往	自動車番號及運ブ順序 復	兒數
自動車	飯田町三丁目側	町會長宅一番	甲(1)	甲(1)	一八
	同四丁目	町會長宅前廣場二番	乙(2)	乙(1)	一一
	同二丁目	町會長宅前三番ノ一			六
	同五丁目	三番地角三番ノ二	甲(2)	甲(2)	四
	同六丁目	町會事務所前四番ノ三			四
	一番町	富士見町停留所側四番ノ一	乙(1)	乙(2)	二
	三番町	町會長宅前四番ノ二			一
徒歩	富士見町五丁目				五
町數 八					兒數計 六一

九、幼兒の生活

私共は、此の夏の幼稚園の仕事にかゝる當初に於て、特に次の條項を念頭に於て、お互に子供の爲に働かうといふ話し合ひをした。

（一）惠まれない家庭の子供である事を忘れないやうにしたい。

（二）幼兒の自由生活を中心として、良好な環境の影響を與へる事に努めたい。

（三）「お約束をよく守りませう」、「お友達を大切にしませう」、「自分の事は自分でしませう」の三つを中心にして、幼兒の生活を誘導しよう。

（四）短期ながら、子供の生活に融合して、眞の子供を知るに努めやう。

そして、出來得るならば、親たる人達の幼兒教養に對する關心自覺を高めるに努めやう。

大體以上の方針により、次掲豫定によつて、日々の活動を開始した。

富士見夏の幼稚園幼兒生活豫定表（昭和六年度）　麹町區教育會

月日	曜	午前				午後		
		八時半ヨリ九時迄	九時ヨリ十時	十時十二時		一時半迄	二時半	三時
七月二十一日	火	開園	身體檢査	間食	お話	晝食	午睡	自由遊	間食	歸宅準備

同	二十二日	水	健康診斷	會集	遊戲唱歌ノ類	同前	お話、作業自由遊ノ類	同	同	自由遊水遊ノ類	同	同	同	同
同	二十三日	木	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	二十四日	金	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	二十五日	土	同	靖國神社參拜										
同	二十七日	月	同	會集	遊戲唱歌ノ類	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	二十八日	火	同	お話と蓄音器の會			同	同	同	同	同	同	同	同
同	二十九日	水	同	會集	遊戲唱歌ノ類	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	三十日	木	同	同	上野公園遠足									
同	三十一日	金	同	同	遊戲唱歌ノ類	間食	お話、作業自由の類	畫食	午睡	自由遊水遊ノ類	間食	歸宅準備		
八月一日		土	同	お話と映畫の會										
同	三日	月	同	會集	遊戲唱歌ノ類	間食	お話、作業自由遊の類	同	同	同	同	同	同	同
同	四日	火	同	靖國神社（角力場）				同	同	同	同	同	同	同
同	五日	水	同	會集	遊戲唱歌ノ類	間食	お話、作業自由遊の類	同	同	同	同	同	同	同
同	六日	木	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	七日	金	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	八日	土	同	靖國神社（角力場）				同	同	同	同	同	同	同
同	十日	月	同	會集	遊戲唱歌ノ類	間食	お話、作業自由遊ノ類	同	同	同	同	同	同	同

同十一日	火	同	身體檢査	同	同	同	同	同	
同十二日	水	同	會集	遊戯 唱歌ノ類	間食	お話、作業 自由遊ノ類	同	同	同	同	同
同十三日	木	同	幼兒製作品展覽	同	閉園				

而して、實際に於ける幼兒生活の大要を列記すれば次の通りである。

甲、およそきまつた日々の生活

前 9. 健康診斷

〃 9.30 會集……おはやう、お約束、唱歌、遊戯等。

次 自由遊び……幼稚兒及小學校内で、

〃 10 間食

次 お話、作業、水遊び等……個人的に或は合同して、

12 晝食

後 1.30 迄 午睡

次 水遊びその他自由遊び、

後 2.30 間食

後 3. 歸宅

右の内水遊びは、夏の幼兒には、中心生活と言つてよい程、興味があり、有益な施設である事を知つた。

本園の水遊び場は、今夏初めて作つたもので、二間と三間のコンクリートの小プールで、淺い所は五寸、深い所は一尺五寸、貳百四拾圓で出來たのである。

何と言つても、夏は水がなくては物足りない、此位の小さいものでも、幼兒には充分滿足を與へる事が出來る。五歳の子供も五寸の水には「はらばひ」になれるし、一尺五寸の深さの所では、ほんとうに泳ぐ事も出來る、現に五人程は立派に泳げるやうになつた、五寸の高さのふちから勢よく飛び込む事も出來れば、お舟も走れば、水鐵砲もほとばしる、出ては日光浴をなし、暑くなれば再入る、涼しい何とも言へない心持で全身を思ふ存分動かす愉快は、何物も之に及ぶものはあるまい。

保姆の或る一人が、「水遊びに於て眞に幼兒の自由活動のうれしさを見た」、と、その日誌に書いたのは正しい考察と言はなければならぬ、「プール」生活に是非なくてはならぬものは、たゞ二つ、

一つは手拭、一つはバンツ、勿論水着などは一切着せない。

手拭は各自持參せしむる事としたが、バンツは家庭の事情を考へて、園から貸與する事にした。初めの間は、衣服のぬぎきせから、からだをふく事まで、隨分世話がやけたのであるが、すぐに大抵皆自分に始末する事が出來るやうになつて、見に來た母を驚かしめた位である。その自己處理の方法は次の順序による。

(イ)室でものをぬぐ　(ロ)水で足やからだを洗ふ　(ハ)耳をしめす　(ニ)足の方からだん〳〵入る　(ホ)出る時はバンッをぬぎ、からだをふく　(ヘ)きめた所へ手拭をかけておく。

乙、時々の特殊生活

(一)靖國神社の遊び　靖國神社は、平常に於ても當園の園外保育の場處と言ふよりも、むしろ當園の延長と考へてゐる位の所であるから、此の夏の幼稚園でも、數回おまゐりをし、樹かげの涼しいお庭、大きい鳥居、金太郎や龜の居るお池にゆつくり親しませた。

殊に、宮司の好意によつて、あの大角力場を開放していたゞいたので、あの廣い草原、中央にある土俵、……この變つた境遇に接して、幼兒が幾多の遊びと生活とを創造した事は言ふまでもない。

夏の幼稚園の施設には、是非とも斯かる近い所に、此の種の良い生活の場所を持つ事が必要であるとしみじみ感じた。

(二)お話の會、蓄音器の會

(三)映畫の會……八月一日擧行、父兄案内、「花咲ぢいさん」、「太郎の冒險」。

(四)上野公園動物園遠足……八月六日擧行、五臺の自動車で、八時から二時まで、幼兒は何よりも動物。この長時間興つきず、漸く促して歸らんとすれば、「象さんさようなら」の聲一同より起る、何と言つても、象さんは一等の人氣者である。

一〇、省みて

三週間の、この小さい仕事の結果を、ことごとく、これ〳〵と言ふのは、どうかと思ふが、省みての雜感を次にしるす。

(一)惠まれない境遇の者の誰れもが、さうである如く、吾が幼兒等は、此幼稚園生活を、非常に愉快なうれしい世界と思つたらしい、之が小さい者の心にどんなに深い印象をのこすであらうか。

(二)境遇の關係上、自己處理の習慣は、初めから割合によくついてゐる。之は普通の幼稚園とは大分違つてゐる良い點である、又新しい境遇に適應する態度もよろしい、隨つて保育上思つたより世話のかゝらぬ感があつた、併し又特殊の變つた子供も數人あつたが、之も割合に早く順應するに至つた。

(三)健康狀態は、頗るよく、食慾は著るしく進み、血色もよくなり、殆缺席なく、身體檢査の結果は各方面とも次の如く增加を示してゐる。

之は、種々の原因の總合的結果に外ならぬと思ふが、主として、廣い凉しい處での自由な活動と、規則正しい生活とから來た賜と言はなければならぬ。

(四)濕疹の甚だしきもの、汗疹の者も多數あつたが手當の上直に快癒し、尙身體の清潔でない者も隨分少くなかつたが、漸次顏、手、足等を洗ふ習慣がつき、總じて初めとは違つた小ぎれいな子供となつ

た感がある。

身體檢査平均增減表 第一回七月二十一日 第二回八月十一日

種目	總數及平均	男兒 二十八名	女兒 二十二名
身長	總長 平均	增 一一、〇〇 Cm	增 一八、八 Cm
		減 ナシ	減 ナシ
		增 〇、三八	增 〇、八五
體重	總重	增 一六、〇〇 Kg	增 一四、四〇 Kg
		減 四、七〇	減 一、六〇
	平均	增 〇、四〇	增 〇、五八
胸圍	總長	增 四二、七〇 Cm	增 四三、八〇 Cm
		減 〇、四〇	減 〇、八
	平均	增 一五、四	增 一、九九

出缺席狀況表

組別	性別	在籍	日々出席平均	日々缺席平均	出席步合
櫻組	男	一七	一五、八六	〇、三三	九七、九四
	女	七	六、〇五	〇、一九	九六、九五
	計	二四	二一、九一	〇、五二	九七、四五
柳組	男	一〇	九、三八	〇、二九	九七、〇四
	女	九	七、二九	一、二四	八五、四八
	計	一九	一六、六七	一、五三	九一、二六
桃組	男	七	五、六二	一、一〇	八三、六九
	女	一一	九、六二	〇、九五	九一、〇〇
	計	一八	一五、二四	二、〇五	八七、三五
合計	男	三四	三〇、八六	一、七二	九二、八九
	女	二七	二二、九六	二、三八	九一、一四
	計	六一	五三、八二	四、一〇	九二、〇五

(五)午睡は、習慣の無いものもあり、睡る子を妨げないやうに靜にして遊んで居るといふ事も困難で、

自然睡らぬ子は別の場處で遊ばせるといふ方法を採つたが、どうも之も思はしくいかなかつた、午睡については根本的に研究を要するものがある事を感じた、之は將來の問題にしたいと思ふ。

(六)水遊びは前記の如く、實に幼兒の興味の中心生活である、將來は之を中心にして夏の幼稚園の生活のプランを立てゝもよいと思ふ、今年は途中からであつたので其の運びにいかなかつた。

(七)幼兒撰定上特に町長の勞を煩はした事であるが、強い賛意を表せられ、精神的にも物質的にも、多大の好意を示して貰ひ、之を社會的の共同事業と考へても誠に圓滑なる發展を遂げたものと言つてもよいと思ふ。

一一、此の結果を家庭教育の參考に

此の結果に基き、將來家庭教育の一助ともなるやうに、個人的に參考資料を與へたいといふのが、吾々の重要なるねらひどころである事は、既に前に述べた通りである。

勿論、此の期間に於ても、相當に身心的影響を與へた事は略前記の通りであるが、何と言つても、三週間位の事であるので、そう著るしい結果を期待するは望まれない。

さり乍ら、此の短期間といへども、直接世話をした吾々が、幼兒の一人々々につき、將來家庭に於てからだや躾の上につき、どういふ事を氣を付けたらよからうか、といふ事、卽、家庭でその子を育てる

氏名		知能檢査	問題正答數		
年齡　年　月　日			知能年齡　年　月		
衞生體育上の考察			暦年齡　年　月		
			知能指數　×100＝		
敎養上の考察			知能指數と發達階段	140	頗る優秀
				130	
				120	普通以上
				110	
				100	普通
				90	
				80	普通以下
				70	
				60	知能薄弱

について、いくらかの助けとなるべき或るものを提供する事は出來ると思ふ。

そこで、幼兒個人の左記事項に關し、觀察や、實驗に基いて幼兒個性に關する考察をなし、閉園後、各組別々に保護者を招き、個人懇談の機會を作つた。

考察要項

一、衞生體育上の考察

二、敎養上の考察

三、知能檢査からの考察

之に用ひた「カード」は次の通りである。

右一及二の事項は、期間中常に觀察した事項をまとめ、三は「ビネー法による大阪市敎育部修正案」の知能檢査法によつて、自分自身檢査した、その問題は次の通り、何故に此の大阪市案を採用したかについては考へがあるのであるが、こゝには略する。

知能檢査問題（ビネー・シモン法ニ基ク大阪市教育部修正案ニヨル）

參才	1	身體部分指示
	2	見慣レタ事物
	3	性ノ區別
	4	繪ノ中ノ事物列擧
	5	家ノ名
	6	形ノ區別
四才	7	短文反唱
	8	二線比較
	9	銅貨計算
	10	了解問題
	11	正方形模寫
	12	美比較
五才	13	十三銅貨計算
	14	三命令實行
	15	二ツノ重サ比較
	16	四ツノ數反唱
	17	忍耐問題
	18	用途定義
六才	19	手指ノ數
	20	四貨命名
	21	紐結
	22	繪中ノ遺漏
	23	右ト左ノ區別
七才	24	了解問題（雨 火事 電車）
	25	四色命名
	26	了解問題（モノヲコワスヲコワクアシヲフム）
	27	菱形模寫
	28	文章双唱（オ休ミ ウンドウカイ 仕事）
八才	29	繪ノ述（家 川 新聞）
	30	記憶差異辨別（ハイ タマゴ 板）
	31	五ツノ數字反唱
	32	二十以下逆唱
	33	釣錢計算
九才	34	五箇ノ重サ比較
	35	用途以上ノ優秀定義（ヒコーキ トラ 學校 兵士）
	36	書取
	37	時日ヲ言ハシムルコト
	38	類似點擧示（マキトスミ リンゴ ナシ テツ ギン）
十才	39	四數逆反唱
	40	三語ニテ文章作製
	41	球搜シ

以下六十六問題略ス

かくて、閉會後次の如く、個人懇談の機會を作つた。

組	月日	出席數
櫻組	八月二十六日	二十四人中十七人
柳組	九月三日	十九人中十一人
桃組	八月二十七日	十八人中十一人

此の保護者との懇談は、保護者も非常に喜び出席者も前記の通り約三分の二に達して居る、親もよく打とけて幼兒について語つてくれるし、こちらも亦、その考察した點や意見やらを、遠慮無く話す事が出來て、いかにも心持ちのよい會であつた。

斯くて吾々の「夏の幼稚園」の仕事は終つた。

一二、豫算

麴町區敎育會主催、富士見夏の幼稚園豫算概要（圓單位）

一、設備費　二〇、〇〇　庭日覆取付及遊具費　二、兒童費　七九、五〇　間食（一日二回）、遠足費、材料費、藥品費等　三、需要費　二〇、三〇　消耗品費、通信費、印刷費、床油費　四、雜給　一四三、六〇　手當、謝禮、傭人料等　五、雜費　七九、四〇　接待費、辨當代、寫眞費、記念帖代等　六、豫備費　二一、四〇　計　三六〇、〇〇